

まちのスケッチブック

あたらしいまちづくりをめざす VOL-6

泉佐野市議会議員 ちよまつ ひろやす
千代松 大耕 (27歳)



「市町村合併」について、新田谷市長に聞く！

千代松：
もし泉佐野市が合併するとしたらどのようなところで泉佐野市にとってデメリットな部分があると考えているのですか？

市長：
私は市町村合併というよりも、地方分権、真の地方自治を進める上で、国からの税源委譲というものが絶対に欠かせないと考えています。しかし国は、地方の行政基盤の脆弱さを理由に中々その部分には取り組もうとしません。それなら行政基盤を強める上で「市町村合併」というわけです。そして市町村合併の話を進める上では現在、人口規模最適化についての論議が中心となっていますが、これからは面積という観点も必要であると思いますし、当然のことながら、住民の意向が最も尊重されなければならぬと思います。

千代松：
現在、泉南市、阪南市、岬町が先行した形で取り組んでいます。泉佐野市、熊取町、田尻町も事務方レベルで広域行政のあり方に関しての調査を始めました。12月をめどに報告を受ける予定であり、私もその報告を受ける予定であります。しかし私自身の考えでは関空と一体となつたまちづくりを進める方向で合併する形が一番望ましいのではないかと考えているのです。しかしこれはあくまで

市長：
現在の泉佐野市は財政状況が厳しいですが、財政力指数は高いです。要は危機的な現在の状況さえ乗り越えれば十分にやっつけける市であります。しかし合併によってさまざまな公共施設や行政サービスの格差の問題も生じるでしょう。このような問題の解消にも努めなければなりません。しかしこのような問題以上に合併による効果があると私は思っています。



千代松：
広域行政を積極的に推進していくというのは共通の認識としてあります。しかし合併となると各首長で温度差があるのも確かです。私は合併推進派です。

市長：
最後に今後の方向性はどのようになっているのですか？

千代松：
私は「市町村合併」は中央から地方に出された課題であると思っています。この課題をクリアしない内は中央は税源を手放そうとはしないでしょう。また私は「市町村合併」をただの行政の効率化であると考えておりません。高度化、多様化する行政へのニーズは確かに現在の自治体の枠組みでの対応は厳しくなってきたており、市町村合併によってその基盤を強くし、効率的に対応しなければならぬ時代になってきているのではないかと考えるのです。(千代松大耕)

市長：
私の考えであり、もちろん最終的には住民の意向であり、議会の意志決定であります。

千代松：
私たちが日々接する「ユース」は青少年の凶悪犯罪等、子どもたちの痛ましい心の荒廃を伝えていきます。もはや「教育」の荒廃は誰の目にも明らかな状況となりました。

千代松：
国づくりの基本を次代を背負う子どもたちに対する「教育」におくということは国家の基本的なことであると考えることも、泉佐野市の将来を考えた場合も「まちづくり」の基本を「教育」におくということは当然のことであると思うのです。今回の6月議会では教育全般にわたって会派を代表して質問いたしました。

千代松：
去る6月8日、大阪教育大学付属池田小学校において、8名の尊い児童の命が奪われるといった痛ましい事件が起きました。亡くなられた8名の児童の「冥福を心よりお祈りし、また被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

千代松：
教育現場において池田小のような痛ましい事件が起こったわけであり、日本という国の将来を考えたとき、最も憂うべきことは「教育」の荒廃であります。

千代松：
「新しい歴史教科書をつくる会」が執筆した歴史教科書が今話題となつてい

千代松：
「新しい歴史教科書をつくる会」が執筆した歴史教科書が今話題となつてい

6月定例議会

るが、泉佐野市はこの教科書についてどのように考えているのか？また泉佐野市における教科書採択はどのようになっているのか？

教育部長：

現在、平成14年度より小中学校で使用される教科書の採択事務が進められている。教科書を採択することは教育委員会の最も重要な仕事である。今回から大阪府下では採択地区の小規模化の方針を受け、共同採択方式を見直し、市独自で採択する一市単独採択方式を実施することとなった。泉佐野市では泉佐野市立学校教科書用図書選定審議会を設け、審議会に諮問する。諮問を受けた審議会は調査員を置き、専門的な調査研究を依頼する。審議会の委員は教育委員会指導主事、小中学校の校長及び教員、小中学校の保護者がメンバーである。採択の日程は、7月中には教育委員会が審議会の意見のまとめ、調査報告を受け採択を行います。「つくろい」の教科書については文部科学大臣の検定を経た教科書である限り、採択対象の教科書であるとの認識である。

(2) 通学区について

関西空港の開港と同時に空港関連の事業によって泉佐野市の「まち」の様相が大きく変化した。一小

校区は空運道によって大きく二分されている。児童生徒の安全を考える上では通学区の再検討が必要ではないのか？

教育部長：

通学区の設定は一度決められたら永久的に変えられないということではなく、地域住民の要望があり各関係団体と協議し変更を行ってきたケースもある。末広小学校、中央小学校の新設に伴う学区の調整区域ができたケースもある。今のところ調整区域の新たな設定は考えていない。

(3) 学校協議会について

大阪府下は「学校評議員制度」を「学校協議会」という名称で取り組んでいる。今年度より泉佐野市においても研究実践されるが導入に向けた現在の取り組みは？

教育部長：

学校協議会は学校長の学校経営に関して、地域社会・保護者の声を踏まえながら学校の向上・発展のために意見を高度な立場から具申することを目的としている。

学校協議会を通して、学校に関する情報提供や、保護者・地域住民の学校運営参画を大切に、開かれた学校づくりを推進する。泉佐野市も本年度から小学校4校において研究実

践をすすめる、早急に学校協議会を立ち上げていく。

(4) 安全管理について

大教大付池田小で起こった事件の後、全国的に学校の安全対策が問われているが、泉佐野市ではどのような対応をしたのか？

教育部長：

事件直後に緊急校園長会を開き、各学校における取り組み事項を決定した。教育委員会としては具体的な策として、財政的に可能な限り、フェンスの修理、インターホンの設置、防犯ベルの配布、防犯カメラの設置、人的警備等の安全対策を進めていく。まだまだ不十分かもしれないが安全体制の充実によりいっそう取り組んでいく。

(5) 国旗・国歌について

今年の小中学校の卒業式・入学式の国旗掲揚・国歌斉唱の実施状況は？

教育部長：

卒業式、入学式とも国旗掲揚は全小中学校で実施され、国歌斉唱は小学校では13校中12校で、中学校では5校中4校が実施している。今後とも学校行事には国旗の掲揚、国歌の斉唱を行うよう指導していく。

あたらしいまちづくり(6)

今回は池田市にある企業育成室として活用されている「いけだピアまるセンター」を個人視察してまいりました。池田市では昨年からの新しい事業を起こそうとしている中小企業や、企業家を目指す人を支援するために、センター内の企業育成室を安く貸し出し、その活動を支援しています。「いけだピアまるセンター」は公的機関が入っていた建物(元々は教育研究所として使われていた)を利用したもので、案内していただいた、いけだまちづくり協議会の杉林事務局長によりますと、「何も手を加えず、できるだけ場所を安く提供しています。」とのことでありました。一地方自治体での中小企業、起業家支援はこのような取り組みから始めてみるのもいい方法ではないかと思えます。



いけだピアまるセンター前



いけだピアまるセンター内

千代松大耕プロフィール

昭和48年10月3日泉佐野市松原生まれ(27歳)

泉佐野市議会議員 自由民主党泉佐野支部政務調査会長 自由民主党大阪府連市町村議員連盟幹事 (社団法人)泉佐野青年会議所会員 羽倉崎教育センター非常勤講師

連絡先 泉佐野市松原2-5-31 TEL./FAX. 58-1708
2001.7第6号 *「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。

ホームページ <http://www.3ocn.ne.jp/~chiyo51/>
メール chiyoma51@hotmail.com